杉並区立富士見丘中学校 学校運営協議会だより

第9号

平成28年7月

子どもが変わったの?

学校運営協議会会長
長（ちょう） 俊介（しゅんすけ）
（日本スクールソーシャルワーク協会会長）
（修復的対話フォーラム副理事長）

子どもが変わったわけではなく、子どもの生きる状況が変わった。

私が子どもの頃、子どもたちは生活者でした。子どもの背中に背負った荷物。背負った弟妹・祖父母。背中に<共同の生活>を背負う。自分の力を使って周囲の人々と<守る－守られる>関係を生きていた。いまの時代を生きる子どもたち。子どもの背中に背負ったカバン。背中に<個人としての自分の将来>を背負う。いまは「個」がむき出しになった時代。そこにさまざまな問題が噴出している。人は自らの力を使って、この自然のなかを、人とともに生きる、ただそれだけ。発達とは、その結果にすぎない。人はみな「いまを生きる」ほかありません。人は、自分で持っている力を使って何かをし、そのことで人に喜こんでもらうのが嬉しい生き物。この発想が、私たちのいまを生きやすくするはず。

子どもたち自身が人を喜ばせ、そのことで自らが喜べる場を!

コミュニティ・スクールの校長として

校長
渋谷（しぶや） 正宏（まさひろ）

学校運営協議会のある学校のメリットは、3つ考えられます。

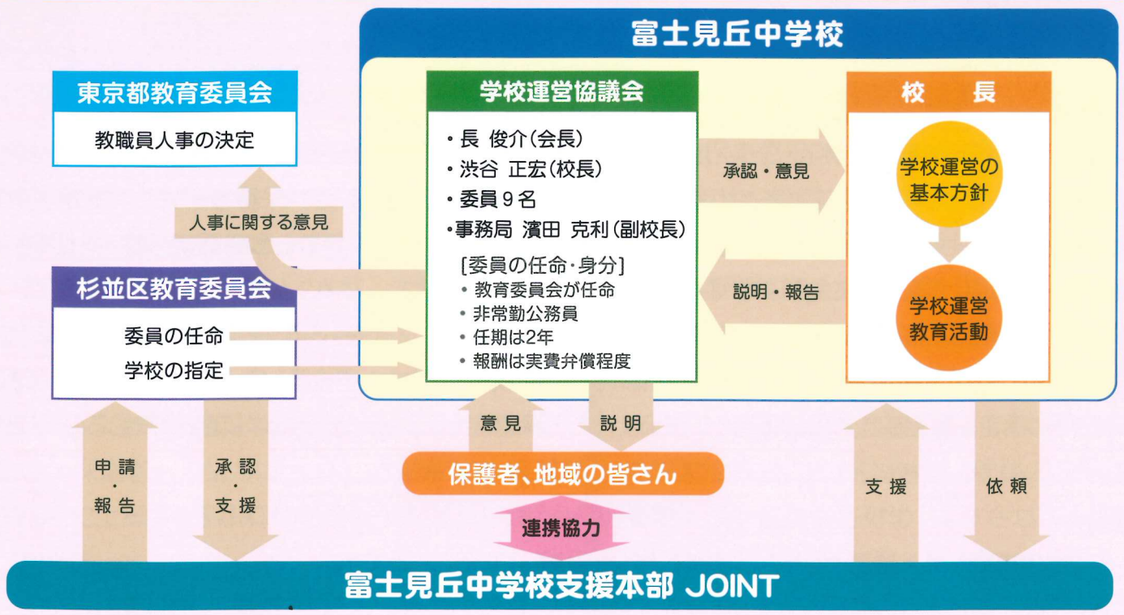
(1) 地域の願いに基づく学校運営を安定的に展開しやすいこと。
- 校長や教員の人事異動に影響されにくい校風ができます。

(2) 地域と協働した教育活動が行いやすいこと。
- 町会や関係機関などの地域代表委員は強力なサポーターです。

(3) 活力ある学校作りがしやすいこと。
- 学校の課題を共有し、PDCA サイクルが機能します。

学校運営協議会は、校長にとっては、頼りになるブレーンでもあり、時には厳しい評価者でもあります。学校運営協議会と学校支援本部とスクラムを組んで地域の学校作りに取り組んでまいります。

富士見丘中学校は平成23年4月より 地域とともに作る学校 学校地域運営学校（コミュニティ・スクール）です



学校支援本部 JOINT は平成22年にスタートしました

『JOINT』には学校～家庭～地域『つなぐ』という意味が込められています。
主な活動内容を紹介します。

２～３年理科　じゃがいもの植え付けから収穫まで。
地域の方にご協力いただき毎年行っています。

１年音楽　二学期に琴の先生から直接指導を受けます。

総合の時間には夏野菜の栽培をします。これも地域の方にご協力いただいています。

１～３年英語や数学には、卒業生の大学生や地域の方に授業支援に入ってもらっています。

毎年恒例　七夕飾り
生徒たちがお願いごとを飾ります。

定期テスト前には放課後、希望者に学習支援を行います。

図書活動支援
各階のフリースペースに本棚を設置。
その本を管理しています。

生徒会や美化委員会の生徒たちと一緒に校内に花を植えます。

また各種検定（漢検、英検、数検）も実施しています。
富士見丘中学校が会場となるので、生徒や地元の小学生も参加しやすいと評判です。

発　行：杉並区立富士見丘中学校　学校運営協議会
連絡先：〒168-0082　杉並区久我山2－20－1　TEL.03－3333－8928

学校運営協議会においては、以下のような役割が規定されています。保護者や地域住民の意見を学校運営に反映させながら、校長のリーダーシップと明確な学校経営ビジョンのもと、校長と一体となって、もしくは校長を補佐しつつ、生徒の健やかな育成とよりよい教育の実現を目指します。

●校長が作成する学校運営に関する基本的な方針の承認を行う
⇒校長の学校経営ビジョンづくりに向けて、教育課程の編成、予算執行、組織編成、施設・設備等の整備及び管理に関する事項について協議します。

●学校運営に関し、教育委員会又は校長に意見を述べる
⇒基本的な方針に関する協議にとどまらず、学校運営全般にわたり意見を述べることができます。

●学校の教職員の任用に関し、任命権者に意見を述べることができる
⇒めざす教育方針を実現させるために「こんな先生に来てほしい」と、教育委員会に意見を述べることができます。

<会議の開催>(月に２回)

会議は夕方 16 時から約 2 時間の予定で開催していますが、懸案事項がある場合は、時間を延長することもしばしば。

最初の1時間は先生との個別の話し合いの時間を持ちます。年度初めは初めて富士見丘中学校に赴任した先生との話し合いを最優先に、各先生の考え方や意見を伺い、委員と積極的な話し合いを行います。

先生たちとの話し合いが一通り終わると、次は PTA の皆さん、生徒会の皆さんとの話し合いです。課題の共有やニーズの把握に努めます。

<学校の教職員の任用に関し、任命権者に意見を述べる>

過去の事例としては下記のような内容を提出しています。
教員の適正配置はもちろん、保育施設の設置についても言及しました。

○部活動の指導の充実、ある程度の部活動数の保持のため、中堅クラスの教員を複数配置するよう要望する。

○産休明け、育休明けの教員が一定の割合を超えたような場合、当該教員への負担の過重、正常な学校運営の困難などが予想される。教員の任用に当たっては、教員の子育て支援の面からも、そうした事態に陥らないようにするために、この割合を超えてはならないなど、何らかのルールを定めてほしい。また働きながら安心して子育てする生活が送れるよう、近隣の教員が利用できる中学校区に一つ程度の保育室の設置、あるいは保育が任せられる仕組みなどを検討してほしい。

山尾先生との面談

生徒会役員との面談

学校運営協議会の構成メンバー

学識経験者
教育関係の大学教授や弁護士、経営者など、校長の学校運営を専門的見地から支える委員

矢吹 正徳
日本教育新聞社

遠藤 雅晴
社会福祉法人沿岡会地域サービス部長

長 俊介
NPO法人日本スクールソーシャルワーク協会理事

校 長

宮原 弘美
学校支援本部本部長

杉江美枝子
高井戸青少年育成委員

目標の共有
課題の協議
基本方針の確認

校長が推薦
現任校長の良き理解者であり、円滑な学校運営協議会の推進にあたり特に協力が必要と考える委員

安江 水城
高井戸青少年育成委員会会長他

鈴木 久雄
同窓会役員、保護司

田中 恭子
16～17年度PTA会長

安田 智子
14～15年度PTA会長

公 募
教育活動に携わった経験があるなど教育に関心のある、地域や保護者の代表として関わる委員

厳樫 敦子
青少年委員

事務局：副校長

校長先生、副校長先生も交え、活発な意見交換を行います

<「学校生活に対する意識調査」の実施>(年に１回)

富士見丘中学校はコミュニティ・スクールに指定される以前、学校評議員を置いていました。評議員は校長先生の求めに応じて、アドバイスするのが役割です。そこから発展して、生徒や保護者、先生にも意見を聞き、アドバイスに反映したいと、学校評議員会が主宰する形で、平成16(2004)年から意識調査を取り入れてきました。調査開始から 10 年を超えて継続中です。

毎年実施する調査結果からは、生徒の様子が伝わってきます。1 年生から 2 年生、3 年生と学年が上がるにつれての成長や課題も感じ取ることができます。課題が大きければ、その都度、校長先生たちと善後策を練り、その効果を見守ってきました。

また、この調査結果を基に、PTAの方々や、生徒たちと、課題を共有しつつ、どんな学校を望んでいるのかなど意見交換もし、より良い学校の在り方、教育について共通理解を深めてきました。

調査の方は今では、学校運営協議会として実施するようになりました。全国に2806校あるコミュニティ・スクールのうちの1校として、地域とともにある学校作りを目指しているところです。

今後とも、みなさま方の忌憚（きたん）のないご意見、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

<「学校運営協議会だより」の発行>

コミュニティ・スクールって?、学校運営協議会委員ってどんな役割を果たしている人?―。こんな声を聞き、始めたのが「学校運営協議会だより」です。

年2～3回と発行回数は少ないですが、学校運営協議会がふだん取り組んでいる活動の内容を中心に紹介しています。

会議の様子、委員の素顔、学校側の期待、左記に紹介した生徒・保護者・先生方に行っている意識調査の一端を掲載などと、地域とともにある学校情報紙にしたいと考えています。

<学校支援本部 JOINT との連携>

学校支援本部 JOINT は地域住民や元保護者らが中心になり組織された学校の支援団体です。

富士見丘中学校の学校支援本部のメンバーには学校運営協議会のメンバーも多く入っており、これによって学校運営協議会における方針が学校支援本部に正しく、ダイレクトにつながります。

また逆に学校支援本部で課題となった事柄も学校運営協議会に上がりやすく、課題の共有には問題ありません。

活動の詳細は裏面をご覧ください。